



新年あけましておめでとうございます



ご家族様から
感謝の言葉が
届きました!

社長賞

2020年
12月度表彰

さわやかリバーサイド西脇

施設長始め職員の皆さんへ

入居者様の息子様より

私、昨日母の百歳のお祝いに紅白饅頭を作り、施設の皆さんに召し上がっていただこうと持ってきました。

私はコロナ以前は大体1か月に2回ほど母の顔を見に行っていました。今回のコロナウィルスのために施設の指導もあり、面会も出来なくなったり、また予約制になったりして、母の顔を半年間ほど見ていませんでした。

今回久しぶりに施設に行き、母の顔を見るのが初めは大変心配でした。やつれな顔か? まだ歩いているかな? 色々心配していましたが、施設に着いて、1階のホールで待つといると、3階から以前と同じ様に押し車を押して元気に歩いて来られました。顔を見ても以前より明るく、あか抜けて元氣に見えて、本当にホッとしました。この時、施設の皆さんの普段の行き渡った介護の気持ちに、本当に感謝の気持ちで一杯になりました。

また、今回皆さんには誕生日のお祝いとか色々プレゼントを頂き本当にありがとうございました。母が百歳を迎えられましたのも、本当に、この施設や施設の皆さんのおかげだと感謝の気持ちで一杯です。

母にはまだまだ元氣に長生きして欲しいと思っています。施設の皆さんには、今後ともお世話になりますが、よろしくお願いします。



さわやかリバーサイド西脇

しづ様の百歳のお祝いで、家族様が面会に来られました。しづ様は久しぶりに出会う家族様に少し照れくさそうでした。今回のコロナで盛大なお祝いができなくなり、施設から心ばかりですが鉢植えの花を贈らせていただきました。施設長からお渡しすると「私にくれてんか? ありがとう。大きいなあ」と手を合わせられ、周りの職員や家族様からは大きな拍手で、一緒に祝いすることができました。多くを語られる方ではありませんが、いつも温かい平素な心を持った方です。入居当初は「寂しい。家に帰りたい」との訴えもありましたが、今では「ここはええとこやで。ご飯も美味しいよ」と笑顔で答えてくださいます。家族様も大事に大事に思われています。私達は人生の大先輩に寄り添えることに感謝しながら、いつまでもゆつたりとしづ様らしく過ごしていただきたいと思っています。(宮崎 まゆみ)

さわやか愛の家あだち館様

利用者様のお母様より

さわやか愛の家あだち館様を利用させて頂いてありがとうございます。娘は小倉特別支援学校中学部2年生です。

娘は強度行動障害があり、自傷・他害、強いこだわりと手のつけられない大変な娘です。学校でも問題が起る度、(あだち館の)青木さんに来ていただけて会議をしていただけております。

青木さんの存在は学校でも影響を与えてくれて、少しずつ良い方向に変わってきていると感じます。さわやか愛の皆さんの皆様がなければ娘はもっと葉漬けか、施設行きになっていたと思います。

さわやか愛の家あだち館の皆さんのいつも根気強く対応して頂いたこと、日々の努力は並大抵の事ではなかったと思います。本当に感謝の言葉しかございません。ありがとうございます。



さわやか愛の家あだち館

強度行動障害は、言葉でコミュニケーションがうまく取れないために、自分の思いを伝える代わりに手や道具として自分や他人を傷つけたりしてしまうのが特徴です。四年二か月に掛けて関わりを持つ中で、言語でのコミュニケーションに頼らず視覚的ツールを使うことで、笑顔で過ごせる時間が増えました。障害を持つ方が社会で暮らすためには、周囲の理解と配慮が必要です。障害を持つ方に変わって理解を求めていくのも私たち支援者の大きな役目だと思っています。(センター長・中島 雪子)

本人の思いを私たちが引き出すことで確かに伝えた時、とても素晴らしい笑顔になるのがわかり、コミュニケーションの楽しさを教えることの大切さを感じました。私たちの支援は、子ども達の「黒子」になることだと考えています。なかなか目の目を見ることのない場面もたくさんある中、今回このようにご家族様から評価していただき、励みになりました。(児童発達支援管理責任者・青木 大輔)

※写真およびお手紙は、お客様ご本人およびご家族様の許可を得て掲載しています。



子ども食堂の事例報告会

11月27日、福岡県等が主催する「人権啓発指導者セミナー」が福岡県春日市のクローバープラザにて開催されました。「企業の社会的貢献～子ども食堂の取組から～」というテーマについて、パネリストの一人としてウチャマホールディングスの社長秘書・小橋佳緒里さんが登壇し、約100名の企業の方々へ、ウチャマグループが運営する子ども食堂の事例報告を行いました。

当社の運営の特徴でもある、北九州市や地元の大学、地域の方々などとの連携による「産学官連携型子ども食堂」の実践についてお話ししました。家庭や学校、児童クラブや塾のどれでもない第4の場としての居場所づくりを目指していることを伝えることで、子ども食堂を通して地域社会への支援を行うことに興味・関心を寄せていただいた企業様も多くあるようです。共に登壇された皆様の取り組みも大変素晴らしく、企業としてできる支援、個人ができる支援など、それぞれが自分たちのできることを「人のお役に立ちたい」という使命感のもと協力して行うことこそが、真の社会貢献につながるのだと感じました。

子ども食堂のみならず、ウチャマグループが一丸となって社会貢献活動に取り組むことは必ず誰かのためにつながっています。その思いをこれからも忘れず、皆で社会に貢献できる活動に積極的に取り組んでいきましょう！（小橋 佳緒里）



出前授業で認知症サポーターを養成



厚生労働省が推進する「認知症サポーターキャラバン事業」では、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を見守り、支援する「認知症サポーター」を養成しています。現在、全国に1270万人以上の認知症サポーターがいます。さわやか倶楽部・運営指導部の大塚千保主任は、北九州市社会福祉協議会の依頼を受け、12月8日に市立湯川小学校の4年生の児童に向けた認知症サポーター養成講座を開催しました。

今回の講座は「認知症～ものわすれの病気～」と題して、紙芝居を使ってみんなで一緒に学びました。児童の皆さんは興味を持って熱心に話を聞いてくれ、講義の最後に私から「大人になっても優しい人でいてください」とお願いしました。

「認知症サポーター養成講座」は無料でいつでもどこでも開催できます。ご興味のある方は、社会福祉協議会またはさわやか倶楽部の運営指導部までご連絡ください。認知症になっても楽しめることがたくさんあることを知っていただきたいと思います。（大塚 千保）

キラリ一等星

光り輝くスタッフのご紹介！

さわやか倶楽部に入社する前は、常に新しい事にチャレンジしたいと思い、様々な業種や職種を経験してきました。営業職、開発スタッフ、そして時には運送業や事務業務なども行いました。前職は医療事務で入院・退院・フロアコンシェルジュを行っていました。接客とは【この人に最高のサービスをして喜んでいただくこと・お客様の笑顔が私の喜び】ということを教えていただき、もっと接客が出来て、自分の行うサービスで相手に喜んでいただけるものはないかと真っ先に思い浮かび、転職を考えました。そんな時にひだか館の事務職員の募集を見て、自分の今までのサービスを全力で発揮できると思い連絡したのが始まりです。

入社してうれしかったことは、事務所に「小出さん居る？」と声をかけてくださる入居者様が多くなったことです。仕事では「心の余裕作り」を意識しています。自分が行うサービスで、目の前の人間が腹を抱えて笑って喜んでいただくことが、私にとって大事な仕事の一つです。入居者様に限らず職員や上司も含めて、人を笑顔にできることが一番の生きがいだと感じています。



副施設長

こいで 小出 直樹さん [38歳]

さわやかひだか館／埼玉県日高市

最近はさわやか倶楽部でもZOOMを使って会議などが行われていますが、ひだか館では今後このシステムを使い色々なことに挑戦します。例えば施設間をネットで繋いで入居者様同士が交流できる遠隔レクなどを考えています。各施設の皆様、一緒に遠隔レクをしませんか？ご連絡をお待ちしています。

最近の趣味は3歳の息子と一緒に絵本を読むことです。最近読んだ「どんどこももんちゃん」「ゆきのひのたんじょうび」などは、自分も読んでほっこりしました。上の小学6年生の娘とは、秋葉原でパーツを買い集めて1からパソコンを作って遊んでいます。子どもは覚えることが早く、父よりも詳しくなっている娘に唖然としている毎日です。

管理者になってあっという間に1年が経ちました。最初に管理者を任された時は不安しかありませんでしたが、ひだか館の職員や入居者様から「小出さん！小出さん！」と笑顔で声を掛けていただきながら励まされ、逆に私の方が感謝、感謝の毎日です。本当にいつもありがとうございます。これからも心の余裕作り頑張ります！

LIFE MAP ライフマップで 生きがい発見

story
18

つながる縁(円)

さわやか螢風館【福岡県北九州市】

外山(とやま)様は昭和28年11月30日の生まれで、現在67歳です。まだまだ若い外山様ですが、進行性の難病の為、2017年5月にさわやか螢風館に入居されました。当時を振り返ると、在宅での生活は可能と思われましたが、諸事情により入居を決意されたようです。

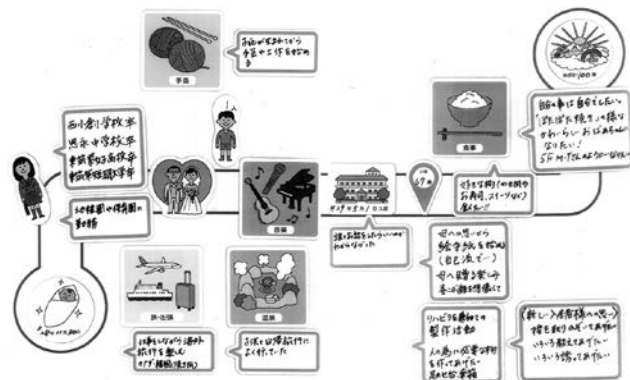


外山様は北九州市小倉北区で、2人姉妹の長女として生まれています。市内の短期大学保育課卒業後、保育園や幼稚園に勤めながら、私生活では海外旅行(主にカナダや韓国)を楽しみました。焼肉が大好きな外山様は、何度も韓国に行かれたとのことでした。

26歳で結婚して男の子1人を授かり、子育てをしながら保育士の仕事を続けられました。息子様と一緒によく日帰り旅行に出掛けたり、家族で音楽を楽しまれたようです。また、息子様が生まれてから手芸や工作を始められ、今に至るまでずっと続けられています。

15年前の2006年、52歳の時に進行性の難病を発症されます。足が思うように動かなくなり、歩行器や電動車椅子等を使用するようになります。ご自宅で生活されている時は、少しでもスムーズに動けるように、デイケアのリハビリや訪問リハビリに熱心に取り組まれていました。

さわやか螢風館に入居されてから、3年と6ヶ月が過ぎました。2020年11月、介護保険の更新に合わせ、ケアプランの見直しとライフマップの聞き取りを行いました。改めて入居当初の気持ちを尋ねると、「誰とお話しをしたらいいのかわからなかった。だからこそ、新しい入居者が来た時は、不安を取り除いてあげたい。いろいろ教えてあげたい。いろいろ誘ってあげたい」と言われます。とても温かい言葉です。外山様の居室がある3階の入居者様は皆さん、外山様のことを慕っていま



す。保育士の経験が活かされているように思います。最近では市内に住むお母様に絵手紙等を送られました。絵手紙を入れて送った袋もお手製です。いずれも世界に一つしかありません。「今は電話で声を聞くことしかできないけれど、母の喜ぶ顔を想像しながら作りました」とお母様への思いを語られていました。外山様にとっての製作活動は「リハビリでもあり暇つぶしかな…」と笑って話されますが、居室に飾られている一つ一つの作品はとても丁寧に作られています。



外山様は自分の病気のことを十分に理解され、全身の機能が徐々に低下していくことをとても心配されています。施設では作業療法士と話し合いながら個別のリハビリメニューに取り組んでいます。「自分の事は自分でしたい!」という意志を強く持たれていて、それが食べることや生きる意欲へとつながっています。新型コロナウィルス感染症が一日でも早く収まり、以前のように外食等を楽しめるようになることを心から願っています。

外山様の目標年齢は100歳で、螢風館の5階に入居されている松尾様が目標との事です。松尾様は穏やかでお元気な方です。同じ施設の中に目標とされる方がいることは、とても嬉しいことです。階は違っても入居者様同士のつながりを大切にしていきます。外山様は自分のことを「私は円の中の点で色々な人に支えられて、縁で囲まれて」と表現されます。螢風館ではそれぞれの専門職員が知識や経験をもとに外山様をサポートしています。チームケアの醍醐味です。外山様の100歳の目標が達成できるよう、今後も全力で支援していきたいと思います。(篠田 靖子)

収穫しました！

ジャガイモとブロッコリーが収穫されました。育てているのは、2階ベランダに設置した大きめのプランターなんです。ブロッコリーもジャガイモもとても立派に育っていました。収穫したものは、もちろんさっそく調理開始。茹でたてをいただきます。とてもおいしかったです。(野崎 はるひ)



さつまいものきんつば！

今日はホクホクさつまいもできんつばを作ります。

美味しそうに茹であがったさつまいも達。これから入居者様とクッキングスタート。皮をむいておいもをつぶして型に入れて30分冷蔵庫で寝かせます。下準備完了。午後になり、フロアで焼き始めました。

入居者様あまーい匂いに誘われ集まってきましたよ。おやつの時間になりましたので、できたてのきんつば食べましょう。美味しい物を食べて楽しい会話はずんで、ながれやま館って楽しい！(藤島 真州美)



さわやかだより



日々更新される
施設のブログから
一部をご紹介します！



焼き芋パーティ！

焼き芋パーティを開催しました。利用者様にお手伝いして頂き、お芋さんを洗い新聞紙にくるんでアルミホイルで包み、焼き芋の準備をしています。



外では、職員と利用者様の男性陣で竹に火をつけ、炭を作り、焼き芋の準備をしています。炭ができたなら丸い鍋に移し、芋を入れて焼いていきます。



わぁ～30分程で、こんなに美味しそうな焼き芋が焼きあがりました。いよいよ実食です。とっても美味しそうに焼けていますね。皆さま、笑顔いっぱいとても美味しそうに食べられていて職員も嬉しいです。

煙で真っ黒になりながら朝からずっと焼いて下さった男性の利用者様とデイサービスの職員さん、どうもありがとうございました。(西 貴代香)

麺屋あおい

さわやかあおい館では11月30日から12月4日の5日間に、ラーメン屋「麺屋あおい」をオープンしました。利用者様の食べたいもののランキングでは2位に上がるラーメンを提供しました。



本格的なラーメンが食べたいとのご希望が多かったので、市販品に頼らないラーメンを作りました。仕込みを行い、スープは7時間煮込んで、チャーシューも煮卵も自家製です。特にほうれん草は施設で栽培したものを使用しました。利用者様にはとても喜んでいただけました。初めての取り組みでしたが、私も職員も皆が楽しめました。食は大きな楽しみの一つです。あおい館ではこれからも楽しい美味しい食を目指します。(梶原 和典)

さわやかラーメン開店!

入居者様から多くのご希望があった、ラーメンをお昼に提供させていただきました。

いつもの食事とは違い、各フロアで麺をゆで、出来たてを食していただきました。また、チャーシューも手作りしました。おおきなチャーシューとあつあつのラーメンを堪能していただき、「とてもおいしかったよ、またやってね」などのリクエストもあり、次の開店日を調整していきたいと思います。(根岸 一人)



オンライン参拝・仁和寺

京都・仁和寺のオンライン参拝が行われました。今回は紅葉+参拝+特別拝観です。11月26日の午後2時スタートで各フロア、テレビの前でスタンバイOK。お寺をバックにした美しい紅葉、重厚な仁和寺、そして、国宝・金堂内部の拝観。芸人・アキラ100%さんがこのツアーをレポートしました。



また、住職の解説と共にオンライン参拝をしました! 美しい生映像で紅葉の境内を散策。

この映像に利用者様は「美しい、心が洗われるようです」と感動していました。このことを早速、パソコンで感想を述べると、アキラ100%さんがすぐに全国の視聴者に流してくれました!これを聞いてさらに利用者様はびっくりしていました。

この後も、色々と計画があるそうでみんな楽しみにしています。(木主 和治)

デコレーションケーキ!

12月も、1週間が過ぎました。クリスマスまであと少しです。行事がたくさん待っているので楽しみです。そこで今日は少し早いですが、クリスマスっぽくロールケーキにデコレーションをしてみました。バナナを切ったり、イチゴを切ったりさすがの包丁さばきです。



それぞれ好きなようにデコレーションし完成したところで記念撮影。美味しい〜、楽しかった〜と喜びの声が聞けて私たち職員も嬉しいです。(夏井 麻里衣)





ウチヤマグループで働く皆さんの日報をご紹介します！

日報賞



ゆげた 弓削田 恵子 施設長 [さわかおおもみや館／埼玉県さいたま市]

職員の活力朝礼にてインドネシアの技能実習生に指揮をとってもらいました。2日前、初めて行った際は自信なさそうな小さな声で、読みづらい文字もあり、たどたどしい言葉でしたが、今日は大きな声でハキハキと理念を読み上げ、見違えるほどでした。その姿を見て胸が熱くなりました。彼らの努力には本当に頭が下がります。日本語能力試験「N2」にも挑戦すると言っていますので、どんどん言葉を発する場を作っていきたいと思っています。

入居者様との活力朝礼でも、嬉しいことがありました。両手両足の可動域が狭く、いつも見ているだけの方に声掛けをして一緒に体操を行うと、腕を上げたり広げたりを一生懸命やってくれました。「今までできないと思ったけど、一緒にやってくれたからできた。嬉しい」と、最高の笑顔のプレゼントを頂きました。



まさひさ 岡野 誠久さん [コロッケ倶楽部 龍ヶ崎店／茨城県龍ヶ崎市]

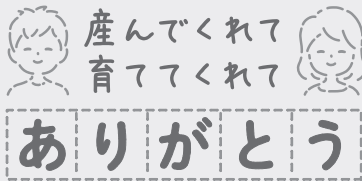
アルバイトを始めて4日目になりました。まだ自分ができることが限られている中で、セツト、洗い物、掃除に力を入れて行いました。

ドリンクバーチェックを行っている時に、お客様から「コーヒーはどれ？」と聞かれたので「こちらです！」とご案内しました。グラスを渡してコーヒーを入れている時に、私から「ミルク、ガムシロップ、マドラーはお使いになりますか？」と聞き、お客様に渡したところ「ありがとう」と言われました。アルバイトを始めて数日で「ありがとう」と言われたのが初めてでした。とても嬉しかったです。これからもお客様が困っていたら、お客様の立場に立って接したいと強く思いました。

私は愛知県一宮市で生まれ、稲沢市で育ちました。

小さい頃に両親が離婚し、父に引き取られました。父は自分の為に朝早くから夜遅くまで仕事を頑張ってくれ、祖父母にもたくさん愛情を注いでもらいました。そんな中、私が小学校1年生の時に小児てんかんにかかり、1年間の入退院生活を送りました。その後も服薬治療や定期検査等が続き、完治したのは20歳を迎えた時でした。すごく心配させてしまいましたし、迷惑をかけてしまいました。

私が中学1年生の時には父が再婚し、新しくお母さんが来ました。最初は不安や戸惑いで、どう接していいのかわからず距離を置くこともありましたが、私に対して自分の子どものように真剣に向き合ってくれました。



さわかおおかざき館／愛知県岡崎市

飯尾 武志 副施設長

学校や塾、私が成長する過程を優しく見届けてくれ、多くのサポートをしてくれたこともあり、私も自然に『お母さん』と呼ぶようになっていました。お世辞でも裕福というにはほど遠い家庭環境でしたが、私が今こうやって多くの仲間と仕事ができ、何不自由なく生活できるのは、両親や祖父母の存在が大きかったからだと思っています。

現在は私も結婚して家庭を持ち、子どもを育てる立場になりました。改めて親の偉大さを知ると共に、存在のありがたさを痛感しています。母と同じく私は息子と血が繋がっていませんが、母が私にしてくれたようにたくさんの愛情を持って子どもたちと真剣に向き合い育てていこうと思います。

お父さん、お母さん、そして亡き祖父母へ。私を育ててくれてありがとうございます。

はたなかさんは客の嗜好をよく把握して仕事ができる、早い一週に二〜三回、老後の楽しみとして、主人と二人で利用させていただいています。帰りにいつも「ありがとうございました」の言葉が自然に出る程、心地よく過ごさせていたいただいています。店員の皆さんに感謝です。(宮崎県延岡市・上野様より)

コロッケ倶楽部 延岡店

何回来てても食事おいしいです。いつも親切に皆様が対応してくれ、また来たいという雰囲気です。帰ります。いろいろな野暮な質問にも答えてくれ、誕生日の割引券もちゃんと送ってくれ、誕生日、たいへんありがたいです。(山口県岩国市・矢田様より)

コロッケ倶楽部 南岩国店

いつも放課後等デイサービスを利用させていただき、ありがとうございます。本人もとても楽しみにしています。本人は一人っ子で兄弟がいまいません。放デイに行くとお兄さんやお姉さん、下の学年の方などと接することができるのでありがたいです。その中で色々な刺激をもらい成長できていることもあり、ありがとうございます。職員の方々も丁寧に対応してくださり、ありがとうございます。(岡山県瀬戸内市・春名様より)

さわか愛の家せとうち館





ベートーヴェンの生涯に学ぶ

生誕二五〇周年

年の瀬が近づいてくると、クラシックの名曲『第九』を耳にする機会が多くなります。今年は新型コロナウイルスの影響で、多くのコンサートやイベントが中止を余儀なくされていますが、こんな時こそ本物の文化や芸術に触れ、心を癒す時間を大切にしたいと思います。

『第九』を作曲したルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは、一七七〇年の十二月十六日にドイツに生まれ、二〇二〇年に生誕二五〇周年を迎えました。五十六年の生涯の中で約五〇〇曲の作品を残しています。『運命』や『英雄』、『エリーゼのために』など多くの楽曲が親しまれ、現在でも盛んに演奏されている偉大な作曲家ですが、その人生は波乱に満ちたものでした。

宮廷のテノール歌手だった父ヨハンは、息子をモーツァルトのような有名音楽家に育てたいという野心を持ち、幼い頃からスバルタ教育で鍛えました。その成果もあって、七歳にして演奏会を開き、十一歳で作品集を初出版するなど、早くから才能を発揮しましたが、アルコール依存症に陥った父はやがて仕事を失い、子どもたちについていく辛くあたるようになります。そんな状況の中、ベートーヴェンは宮廷でオルガンを弾いたり、ピアノ教師の仕事を懸命に勤めたりすることで、一家を養いました。

二十代半ばになると難聴に悩まされるようになり、音楽家にとって命の次に大切な聴力を失いました。三十一歳の時には悪化した聴覚障害の苦悩に耐え切れず、遺書を書くほど追い込まれたようです。他にも、家族の親権争いや身もだえするような激しい失恋など、数々の辛く苦しい出来事を経験します。この度重なる逆境を乗り越えられたのは、音楽を自分の体の一部のように愛してやめぬ、純粋な気持ちが根底にあったからでしょう。

運命を受け入れ、信念を強く持つ

私自身、少年時代からクラシック音楽に親しみを感じ、レコードやCDを集めてきました。中でもベートーヴェンはお気に入りの作曲家の一人で、休憩中や車での移動中などに曲を聞きながら気持ちを静めたり、奮い立たせたりしています。様々な苦難に直面するたびにその激しい思いを音楽に込め、情熱を燃やしながらか素晴らしい作品を生み出していくベートーヴェンの精神力の高さは、今を生きる私たちにも生きる希望と勇気を与えてくれます。

ベートーヴェンが残した手記の中には「勇気を出せ。たとえ肉体に如何なる欠点があろうとも、我が魂はこれに打ち勝たねばならない」という当時二十五歳だった彼の若き日の苦悩と覚悟が綴られています。

音楽家にとって聴力を失うことがどれほど大きい損失であるか、その悩みの大きさは想像を絶するものがあります。しかしベートーヴェンは音楽家であることをあきらめず、さらに情熱を注いで作曲りに励みます。そうしてできた作品の一つ、交響曲第五番『運命』の、あの有名な出だし「ジャジャジャジャーン」というインパクトのある旋律に多くの人が魅了されるのも、ベートーヴェンの魂の叫びが時代を超えて私たちの心に伝わってくるからだと思います。

現在はコロナ禍により、辛い思いをしている方も多くいます。しかし、起きている物事を悲観的に捉えるのではなく、状況をしっかりと見つめる中で自分自身を認め、与えられた使命や心に秘めている強い信念に気付くことができると思います。今こそ私たちの理念の主題である「人のお役に立てる企業であり続ける」という信念を持ち、困っている方々やたくさんある企業の中から当社を選んでも利用していただくお客様に対して、情熱と優しさを込めた素晴らしいサービスを提供していきましょう。



MESSAGE FROM PRESIDENT

ウチヤマグループ代表
内山 文治

今月のオススメ図書は…



- 1 永守重信の人材革命 (日経トレンディ 編)
- 2 成功者がしている100の習慣 (ナイジェル・カンバーランド)
- 3 やばいデジタル～現実が飲み込まれる日～ (NHKスペシャル取材班)

- 4 人生を変える「本当の感謝」 (山田 俊明 著／佐藤 康行 監修)
- 5 クリスマス・イブのねがいごと (レトシー・コーデロイ 作／サラ・マッシーニ 絵)

読んでみよう！

技能実習生

さわやかいわつき館
埼玉県さいたま市

さわやか枚方館 大阪府枚方市



フィルマン・ラマダン
ソフィヤンさん



ナンダ・ノフィアサリさん



スラン・ヒクマワティさん



ノフィ・アルダニ・インタ
ンサフィトリさん

インターンシップ生

さわやかいなざわ館 愛知県稲沢市

さわやかなんよう館 愛知県名古屋



エルヴィ・ズリーヤトル
ワディーさん



シティ・アイシャーさん



イクフィ・アメリンダ
ヒマティさん



アユブ・ウマル
アルファルクさん



アンガ・アンディカさん

インドネシアから ようこそ!!

さわやか倶楽部の海外子会社(PT.Sawayaka Fujindo Indonesia)がインドネシアで運営している職業訓練校より、介護職員としてさわやか倶楽部に内定していた4名が来日しました。入国後に国内での研修を受け、12月から技能実習生として2施設に分かれて配属されています。また、当社グループと提携しているインドネシアのウィディヤチプタフサダ看護大学より、5名のインターンシップ生が来日し、こちらも12月から愛知県内の2施設で介護実習をスタートしています。

今年は新型コロナウイルスの影響で入国の時期が遅くなり、不安な状況が続きましたが、ようやく日本での生活がスタートし、各施設のトレーナーの指導の下で生き生きと仕事に取り組んでいます。(金森 彩)

末永く
お幸せに...

HAPPY WEDDING



木村 雷矢さん & 里奈さん

2年の交際を経て、2020年9月10日に入籍いたしました。家族となった瞬間、この上ない幸福感が湧き上がったのを覚えています。これから二人でさまざまな景色や経験を共有し、お互いに支えあいながら幸せな家庭を築いていきます。

♥さわやか和歌山館 機能訓練指導員・木村 雷矢



堀田 知佳さん(旧姓・岡)&祐樹さん

2020年11月22日、いい夫婦の日に入籍いたしました。日付にちなんで、良い夫婦になれるよう仕事もプライベートも今まで以上に頑張り、支えあって過ごしていきたいと思っています。

♥フジヤマ桜 浜松町店 マネージャー・堀田 知佳

合格 おめでとうございます!



介護支援専門員
(ケアマネジャー)

さわやか柏館

太田黒 典子さん

第28回

ウチャマグループ

特別講演会

講師

ジャーナリスト
櫻井よしこ氏

日時 2021年3月18日(木) 15時開場/16時開演

会場 アルモニーサンク北九州ソレイユホール

テーマ 今、私たちが出来ることはなにか

入場料 お一人様 3,000円

[収益金の一部を社会福祉事業に寄付させていただきます]

プロフィール

ベトナム生まれ。ハワイ大学歴史学部卒。クリスチャン・サイエンス・モニター紙東京支局員、日本テレビのキャスターなどを経て、現在フリージャーナリスト。1995年に大宅壮一ノンフィクション賞、1998年に菊池寛賞を受賞。2007年「国家基本問題研究所」を設立し、理事長に就任。国防、外交、憲法、教育、経済など幅広いテーマに関して日本の長期戦略の構築に挑んでいる。

お問い合わせはお気軽にお電話ください▶(株)ウチャマホールディングス TEL.093-531-0966

あなたのお悩み話してみませんか?

ひとりでも
構わないで!

さわやか相談室



お気軽にどんなことでもご相談ください。
お電話、メールお待ちしております!

電話番号

090-9497-5764

メール

sawayakasoudan@docomo.ne.jp